

ポケチューバー リオンの の旅巡り

初心者

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

シンオウ地方で人気のポケチューバー、リオン。動画投稿を初めて5年の歳月が経ち、故郷であるガラル地方に戻ってくる。そこで自由気ままにありのままの自分をぶつけながらポケモンたちとともに成長していく話。

目次

リオンのガラル地方ジムチャレンジ解説

編 | 1

グルメ：リアトリスのカレー屋さん

15

リオンのガラル地方ジムチャレンジ解説編

「えー、みなさんおはこんにちはー！超絶最強トレーナーにしてポケチューバーのリオンよー！」

コメント：リオンちゃんキター

コメント：超絶最強wwww

コメント：→新参者か？

コメント：リオンちゃん。ポケモンに関しては鬼強いからな

コメント：対人戦の動画はないけどリオンちゃんのポケモンは実際強い（確信）

コメント：リオンちゃん、今日は何をやるの？

「よく聞いてくれたわね！今現在、アタシは故郷であるこのガラル地方へと帰ってきたのよー！」

コメント：マジ？リオンちゃん、ガラル地方出身だったの？初知り

コメント：ずっとシンオウ地方で動画投稿してたからシンオウ地方出身なのかと思っ
てた。

コメント：てことは今回からはリオンの旅巡りはガラル地方編になるのか

「察しの通り今回からガラル地方を回っていくわ。ちなみに帰ってくるのは5年ぶり
ね。まあ色々あつて故郷に帰ることになったけど安心しなさい。こうした動画投稿は
続けていくつもりだから。てなわけでアタシは今、列車に乗って故郷のナツクルシテイ
に向かつてるわよ。まっ、でもその前に一度エンジンシテイに寄るんだけどね

コメント：エンジンシテイ、そういえばそろそろジムチャレンジが始まるって言つて
たよな・・・

コメント：まさかりオンちゃん、旅しながらジムチャレンジに参加するつもりじゃあ
！

「ジムチャレンジ、そんなこともあつたわね。けどジムチャレンジするには推薦状がい
るんでしょ？残念だけどアタシ持ってないわよそれ」

コメント：推薦状？ジム挑戦するのにそんなものがあるのか？

コメント：話でしか聞いたことがないけどガラルのジム戦は他のジム戦とは全然仕組みが違うらしいから・・・

「ジムに関しては教えてあげたいけどジムチャレンジするつもりがないからまた今度ね。おっとみんなそろそろエンジンシティに着く頃ね。それじゃあガラル地方へ踏み入れるわよ！」

懐かしい匂い。懐かしい風景。ブティックもポケモンセンターも雑貨屋さんもちつとも変わってない。帰ってきたのね、アタシは。5年ぶりに・・・このガラル地方に・・・

アタシの名前はリオン。ポケチューブに投稿しているポケチューバーと呼ばれる人よ。アタシはその中でも旅ポケチューバーって分類してるわ。最近は技術の発展で動画投稿するパッド、通称ポケパッドにロトムを忍ばせたロトムパッドで動画や写真を撮るのが流行ってるのよ。

アタシはこのロトムパッドを使っていろんな動画を撮って投稿している。旅におきた出来事やいろんなことをね。それを面白おかしく、自分の思うままにやっているの。

最初は伸び悩んでいたから友だちに相談したら自分の持ち味をもっと生かしたほうがいいって言われたの。旅で培ったポケモンの知識とそしてこの美貌。ロトムパッドで投稿するスタイルを知ったアタシは実際の自分を姿を取っているんなことをやって・・・

そして少しずつだけどみる人も増えてきた。ただシンオウ地方ではやり尽くしたってこともあって故郷に帰ることにしたの。いい機会だったし。コンテストは良かったね。ガラルにはない文化の一つだったから・・・

おっと物思いにふけってる場合でもないわね。それじゃあ

「リオンの旅巡り！ガラル地方編スタートよ。記念すべき1回目はどうしようかしら？」

コメント：リオンちゃんのエンジンシティ解説コーナーやって

コメント：リスナーの大半がシンオウ出身だもんな。

コメント：ガラル地方に関してはジムチャレンジとかも含めて分からないことだらけだし

コメント：リオンちゃん。俺もジムチャレンジについて知りたーい

「コメント欄を見る限りガラル地方のジム巡りについて知りたいそうね。それじゃあ記念すべき1回目のタイトルは『リオンのガラル地方ジムチャレンジ解説編』でいくわね」

コメント：リオンちゃんの解説編キター

コメント：解説編のリオンちゃんは得意げに早口になって話すからマジで俺ら

コメント：ヲタクリオンちゃん

コメント：博識なところは博識だからなく

コメント：たまにおバカなところもあるけどなー

「今、コメント欄でバカつて言った人にはいつかボコボコのけちよんけちよんにしてやるんだから」

コメント：けちよんけちよんwwwwww

コメント：けちよんけちよんは草

コメント：お前ら笑ってるけどリオンちゃんは洒落にならんレベルで強いからな実際
コメント：さつき過去の動画漁ったけどガブの群れを返り討ちにしたのはやばかつた

コメント：あの回か。ロトムブレッツブレだったけどやばかったよな。

コメント：あと霧が濃くてところどころ見えなかった。

コメント：それなー。きりばらい覚えたポケモン持ってないんだよなりオンちゃん

「まあいいわ。とりあえずジムチャレンジの解説をするためにとりあえずエンジンスタジアムに向かうわね」

そしてアタシはエンジンシティに降り立ってまずはじめにエンジンスタジアムに向かう。うんつ、ここも変わってないわね。本当に懐かしい

「さてとコホン。あーあーテストス」

コメント：マイクテスト W W W W W W W

コメント：リオンちゃんさつきからずつと喋ってるでしょ？これ生なんだから W W W

W

「あつ、えつと・・・コホン。いつ、今からジムチャレンジの解説するわね」

コメント：誤魔化した

コメント：誤魔化したな

「うるちやい！えつと何から話せばいいのかしら？とりあえずまずは普通のジム巡りについて説明するわ。アタシの動画のユーザーの大半はシンオウ地方の人たちだからシンオウ地方を使つて解説していくわね。」

まずシンオウ地方のジム巡りに関してはポケモントレーナーであれば誰でも出来ること。そして8つのジムを巡ってポケモンリーグに挑む。まあこれがアタシのユーザーたちが知るジム巡りね」

コメント：まあそうだな

コメント：ジムをめぐる順番も決まっただけでなく8個集めればいいもんな

「でもガラル地方のジムチャレンジは大きく異なるの。まずガラル地方にはジムが存在しないな」

コメント：は？

コメント：ジムリーダーいてジムチャレンジあるのにジムがないのwwww

コメント：どうということなんだ（困惑）

「まあそれに関しては今から解説するわ。まずさつきも言ったけどここガラル地方にはジムがないの。けどね、その代わりにスタジアムが用意されているの。もちろん観客も導入されるのよ。観戦者がいてジム戦をするから盛り上がりが段違い。」

そうね、シンオウ地方で例えるならコンテスト会場がこっちではジムの会場になってるって考えればいいわ」

コメント：てことはジム戦するたびに沢山の観客に見られるってこと？

コメント：超プレッシャーじゃんそれ

コメント：トレーナーの精神面も試されるのかこれ。

「そしてジムトレーナーを倒してジムリーダーに挑む。まあこれはそういうジムもあるけど基本的には試練があるの。その試練をクリアして初めてジムリーダーに挑むことができるの。ジムによつて色々ね。そして8つ集めたら挑めるポケモンリーグと違つてガラル地方は期限までに8つ集まらなかつたらそして同じジムリーダーに3回以上負けたらその時点でチャレンジ失格になる。だからリーグ戦に挑めるのはほんの一握り。ガラル地方のジムチャレンジはそれだけ厳しいのよ。そしてさっき言った推薦状。ガラル地方のジムチャレンジするには推薦状を書いてもらう必要があるの。例えばポケモンの博士やリーグ関係者とか色々ね」

コメント：さすがリオンちゃん博識

コメント：リオンちゃん先生

コメント：解説するのはいいけどモンスターボールの顔した奴なんだよwwww

コメント：ほんとだwwwwなんかいるwwww

コメント：シユールすぎて草

コメント：あれなんなんだよwww

「ああつ、ボールガイのことね。あれはねジムチャレンジの人にボールを配ってる人よ。見た目の怪しき全開だけどいい人だから安心して」

コメント：全然安心できねえwww

コメント：ボールガイがくれるボール。閃いた

コメント：→通報した

コメント：→びえん

コメント：薄い本のネタにしようとするなwww

「まあこれは余談だけどガラル地方にある広大なワールドエリアは野生ポケモンがとにかく強いからね。それでダウンするトレーナーもいるくらいだけどワールドエリアに関してはそこでも動画投稿するからその時に解説するわね」

「その君、君もジムチャレンジの方ですか？」

「アタシ？ふふん、残念ね。アタシはただのポケチューバーよ。ジムチャレンジ」

じゃないわ」

「そうでしたか。これはとんだ失礼を。ポケチューバーつてことは今もしかしてこの映像も……」

「そうね生で映つてるわね」

「なぬつ、これはこれはせっかくの生配信の邪魔を……」

「いいのよ。旅は道連れ世は情けつて言うし。旅するポケチューバーはこういう事態にはなれてるわ。もちろんリスナーのみんなもね」

コメント：気にしてないぞおっさん！

コメント：サングラス似合ってますね！

コメント：お勤めご苦労様です！

「……それにしてもその年でポケチューバーとは珍しい」

「ガラルでは珍しいの？」

「いえつ、ポケチューバーというよりは旅するポケチューバーに関しては。ここガラル地方は……」

「知ってるわよ。ガラル地方の野生ポケモンは強いことくらい。アタシも生まれと育ち

はこのガラルなんだから」

「そうでしたか。それじゃあ余計な忠告でしたね」

「いいのよべつに。それよりガラル地方のジムチャレンジの開会式って時期が近いって聞いたけどいつなの？」

「ガラル地方のジムチャレンジの開会式は今から3日後です。ここに来た参加者のトレーナーは1人ずつホテル スポミーインに案内しています」

「ふーんっそつか。ありがとね。てなわけでガラルのジムチャレンジの開会式は今から3日後らしいわね」

コメント：開会式がどんな感じが見てみたい

コメント：リオンちゃんは開会式見たことあるの？

「そうね。ガラル地方ではテレビで普通に生放送やってるくらいだし。せっかくだし開会式始まるまではここにいきましょうか」

コメント：賛成！

コメント：異議なし

コメント：リオンちゃんの故郷も見てみたかったけどこれはこれでよし！

「それじゃあ今回はここまでね。みんな、ガラル地方でもこのアタシをよろしくね！」

コメント：おつー

コメント：おつりおん！

コメント：おつかれー

コメント：おつかりー

そしてアタシは配信を切った。ライブ中に色々物思いにふける。ジムチャレンジか。今もし、アタシが挑めばどれくらい行くのかしらね。

まあもう今は強さだけにこだわってないからいいのだけど。それでも微かだけでも私を震えている。ポケモンバトルの動画を投稿しない理由。もしアタシが再びポケモンバトルをやったらまた昔みたいに戻るのでは？

もしそうになったら今まで積み上げて来たものが全て壊れてしまう。私の大好きなものも居場所も何もかも・・・

「アタシはもう極力したくない。ポケモンバトルを・・・」

アタシも今日は休もう。流石に長旅で疲れたし。すこしの間スボミーインにお世話になる。アタシはジムチャレンジの開会式が始まるまでエンジンシティに留まることにした。

グルメ：リアトリスのカレー屋さん

ガラル地方戻ってきて久しぶりの朝ね。外を見るとたくさんのスポミーがこうごうせいをしている。スポミーインと呼ばれるだけあつてたくさんのスポミーたちが暮らしている。

そういえばまだ言っていなかったわね。故郷に戻る前にエンジンシティに寄った理由。それは友人がカレー屋さんを始めたの。友人といってもその子は幼馴染みでアタシの大親友。一緒に旅した仲間んだけどワイルドエリアでカレー作りにハマって以来リザードン級のカレー作り目指すとか言っていてそっちにのめり込んでしまったのよね。

その子のカレーを食べてみたくてここに寄ることにしたの。そういえばエンジンシティのガイドブックにも載ってたわね。そこには私の友人、名前はリアトリス。そしてとなりに写ってるのはリアアの相棒ストリンダー。変わってないわね。2人とも。

あのジムリーダー、カブも大絶賛。子どもが食べる甘口からレベル10まである辛口コース。日々進化し続ける彼女のカレーとストリンダーの自由性の音楽は店でも評判いいとか。

さてと久しぶりにリアに会おうかしら。積もる話もあるしね。

☆

「コホンっ！第2回、ポケチューバー リオンの旅巡り。ガラル地方編の始まりよー」

コメント：リオンちゃんキター

コメント：おはよーリオンちゃん

コメント：はじめまして。ガラル出身です。昨日のアーカイブから来ました
コメント：着々とガラルユーザーも増えていく。さすが俺らのリオンちゃん

「えーっと。そうね。今日のタイトルはリアトリスのカレー屋さんよ」

コメント：リアトリスのカレー屋さんか。あそこ美味しいよな

コメント：リアトリスのカレー屋さん。ガラルでは有名なのかな？

コメント：リオンちゃん、解説はよ

「リアトリスのカレー屋さんね。エンジンシティではすごく人気のカレー屋さんよ。ガラルにはカレーはジャンル分けされていてねクラスではドガース級から順にソーナンス級、マホミル級、ダイオウドウ級、そしてリザードン級の5つに分かれてるの。

そしてなんととってもリアの作るカレーはリザードン級。一度食べるとそれはもう病みつきになる美味しさよ」

コメント：すげえ食べてみて

コメント：リオンちゃんがそこまで言うつてことはマジで美味しいんだろうな。

コメント：実際にリアトリスのカレーは本当に上手い。ガラルの飲食店の中でも上位に君臨するほどだから

コメント：それ故にリアトリス本人は店にいないこともよくあるらしいけど

「さてとリアトリスのカレー屋さん来るのは初めてなんだけど凄いわね」

コメント：すげえでけえ。

コメント：本当にカレー屋かよ

コメント：リオンちゃんは異世界にきたのか！

「いらつしやいませ」

「すみませんポケチューバーなんですけど撮影はオツケーですか？」

「ポケチューバーの方ですか・・・」

「ん？どうかしたの？撮影に問題でもあるの？」

「いえっ、そのっ・・・」

「そういえばこの料理長のリア・・・じゃなくてリアトリスはいるかしら？」

「リアトリスさんと知り合いですか？あいにくリアトリス料理長は外出中でした・・・」

「ふーんっ・・・リアも忙しいのね。それでリア・・・トリスは今、どこに出かけてるの？」

「はいっ、食材調達しにワイルドエリアへ……」

コメント：というかりアトリスのことリアって呼んでるけど

コメント：そうだね。リオンちゃんの知り合いなのかな？

コメント：だとしたら実はリオンちゃんもかなり大物なのでは？

「リアトリスが直々に取りにいつてるの？」

「基本は私たちスタッフが取りに行くのですが場所によってはリアトリス料理長自ら出向くので。例えばげきりんのみずうみとかこのクラスになってきますと料理長が行く他にないので……」

「ふーん。まああの子カレー作りのにめり込んだってのもあるけどそれと同時にポケモンに関してはかなり強いもんね……」

「今日は確かキバ湖の瞳に行かれてるので……」
「分かったわ。キバ湖の瞳ね。ここからだそう遠くはないし行ってみるわ」

そう言ってアタシは一度リアトリスのカレー屋さんを後にする。カレーを食べたいつてのもあるけど一番はやっぱり幼馴染みのリアに会いたい。会って話したい。

「ごめんなさいリスナーのみんな。カレーを食べる前にまずはリアに会いにいくわ。てなわけでワイルドエリアに向かうわよ！」

ワイルドエリア。それはガラル地方に広がる広大な土地。ガラル地方を一度旅してこのアタシでさえワイルドエリアに関して把握しきれてない。それほどまでにこのエリアは広い。

ワイルドエリアは凄いと同時にそれだけ恐怖もある。今アタシのいるエリアのポケモンは比較的に強くないんだけどたまにすごく格上のポケモンが出てくる。そう

なつたらピツピ人形を投げてでも逃げる。もしくは戦闘を避けるのが利口ね。

ワイルドエリアのポケモンが強すぎる故に折れたジムチャレンジャーもいるのだから。

「どうみんな。見える？これがガラルのワイルドエリアよ」

コメント：うおおおおお

コメント：すげえなんだこれ

コメント：シンオウにはファイトエリアとかサバイバルエリアとかあるけど格が違すぎるだろ

コメント：どつちかというファイトエリアとかあの辺は街よりだけどな。

「さてとこのワイルドエリアからリアを探さないといけないけどリアがいるのはキバ湖の瞳。そこでのみや食材が採れる場所なんて限られてるはず」

ワイルドエリア、もし万が一何かがあつてもこの広大な土地には何人ものポケモンリーグ関係者がいる。全員、委員長のローズが委託した実力者ばかり。仮に何か問題が

起きてみすぐに対処はしてくれる。彼らはワイルドエリアのエキスパートなのだから。それにリアの実力に関しては何も問題ない。この辺のエリアのポケモンに遅れを取るとは考えにくいのだから。

「リアーーーーー！聞こえてるーーーーこのアタシが！帰ってきたわよーーーー」

コメント：リオンちゃん声でかつ！

コメント：どこから出してるのその音量

コメント：ちようおんぽとか付与してないよな

「流石に湖までは届かないか。極力バトルは避けたいから草むらは通らずに回り道していくわよ」

今は自転車とか持っていないしね。あまりやりたくはないけどなみのり使っていくしかないか。シンオウではこれが海を渡るスタンダードな方法だしね。

コメント：リオンちゃん！ストップ！ストップ！

コメント：リオンちゃん！こっちみて！

コメント：リオンちゃん！リオンちゃん！

「ん？どうかしたの？みんな」

コメント：リオンちゃんがコメをよく拾うタイプで助かった。リオンちゃん右見て右！トレーナーがポケモンに襲われてる！

「何ですって・・・!!!」

キテルグマ！なんであんな凶暴なポケモンがここに！アローラ地方ではこう呼ばれている。キテルグマはアローラ地方では最も危険なポケモン。ポケモンだけでなくすら襲うこともある。目についた瞬間全力で逃げるくらいのはしないといけない……

「間に合って！間に合って！間に合って!!!」

ピッピ人形をなげる？いやっ射程範囲外ね。このままだとあの子と襲われてるポケモンが潰されちゃう。

「お願い間に合って！」

そう言つてアタシはモンスターボールを投げた。

「ルカリオ！キテルグマにしんそくよ！」

手遅れになったら全てが終わる。それは何をするにしてもそうだ。選択を誤れば後悔する。そして誤り続けてたらいつか取り返しのつかないことになる。

「大丈夫？」

「えっ・・・あっ・・・」

彼女は涙でいっぱいだった。声も震えてる、抱きしめてるメツソンもひんし状態。応

急処置はできるけどポケモンセンターに連れて行った方がいいかもしれない。

「アンタはそこにある木の後ろにでも隠れてなさい」

コメント：女の子がち泣きしてる

コメント：これやばいんじゃないや・・・

コメント：それよりもリオンちゃんのポケモン

コメント：あああ。早すぎて見えなかった。

「リスナーさんごめんねっ！今日の動画はここまでよ。今回のアーカイブも残念ながら残さないわ。次のリアトリスの動画で楽しみにしてなさない。状況は後でポケットタで報告しておくから」

そう言つてアタシは一方的に動画を切り上げた。アーカイブはもちろんすぐに消す。そしてそれよりも先にこのキテルグマを優先しないとイケない。

「・・・グマーーーーー」

昔、リンググマの群れに襲われていたけどキテルグマは大きさ個体によってはリンググマと比べ物にならないくらい強い。まあ群れてないだけ全然マシなんだけどね。それにしてもここまで強い野生のキテルグマは見たことがないわね。さしずめボスキテルグマってどこかしら。

「アタシのルカリオのしんそくを受けておいてなお立ち向かってくるなんておもしろいじゃない。上等よ！挑んだことを後悔させてあげるわ！ルカリオ、遠慮はいらないわ！インフアイトよ」

目にも止まらぬ速さでアタシのルカリオはインフアイトを炸裂させる。ルカリオもキテルグマもタイプはかくとう。けど同時にお互いの弱点もまたかくとう。先に仕掛けたほうがこの勝負勝ちよ。

「どうする？キテルグマさん。まだ続ける気かしら？けどやめておいた方がいいわよ。近距離でアタシのルカリオのはどうだん受けたくなかつたら今すぐ去りなさいっ！」

そう言つて威嚇したらすぐさまキテルグマは逃げてくれた。逃げてくれてよかった。これ以上バトルを続けると自分を抑えられなくなつてしまふそうだから。

それをリスナーさんに見られたくないし何よりボロボロなこの子を映すのもよくない。アタシがリスナーのコメントを拾うのはリスナーたちともつと仲良くなりたいつてもあるけど一番はやっぱりこうしているんなところをよく見てくれる。すぐにいろんなことに気づいてくれる。

ワイルドエリアは広大だ。それ故にロトムパッドをくるくる回しながら全体図を写してなかつたらアタシもリスナーさんもきつと気がつかなかつた。スマホには写つても肉眼では捉えられないくらいここは広いから。

「もう大丈夫よ。キテルグマはもう逃げたから」

「えぐつ・・・ひうつ・・・メツソン！メツソン！メツソン！ごめんなさい、ごめんなさいっ！」

「・・・」

早くポケモンセンターに連れて行かないといけない。けどここからエンジンシティ

のポケモンセンターは距離がある。そらをとぶタクシーを呼んでポケモンセンターに行こうにも多少のラグはある。

「コレを使いなさい」

「これは・・・」

「げんきのかたまりよ。これを使えばメツソンはすぐげんきになるわ」

「っ！受け取れませんか！そんな高価な・・・」

アタシはその子の言葉を無視してメツソンにげんきのかたまりを与えた。もつたいないかもしれない、高価なものも貴重品なことも市場ではあまり目にかかれなことも。

けどねそれでもアタシはこの子たちを助けたいと思った。理由なんてそれだけで充分よ。

「めっ・・・」

「メツソン！メツソン！よかった本当に・・・」

「・・・メツソンか。懐かしいわね」

「ありがとうございます。げんきのかたまりはいつか返します。いつになるかわかりませんが・・・」

「いいわよ別に。アタシがアタシの意志で使いたいと思ったんだから・・・とりあえずここにいるのは少し危ないかもね。場所を変えましょ。アンタ、今持ち物は何持つてる？」

「持ち物・・・えつとキズぐすりとモンスターボール・・・だけです」

「・・・それだけの備えだとこのワイルドエリアを抜けるのは少し難しそうね。そうだ、アタシについてきなさい。ワイルドエリアでどうすればいいか教えてあげるわ」

まずはきのみ収集。落ちてるアイテムは見逃さない。この二つをすることで大概どうにかなるものね。特にあなたみたいな新参者のトレーナーは。

「自己紹介がまだだったわね。アタシはリオン。旅しながらポケチューバーをやっているの。あなたの名前は？」

「ゆっ・・・ユウリ・・・です」

「そつ、よろしくねユウリ」

これがいずれガラルを救い英雄と謳われる少女、ユウリとポケチューバーことリオンの出会いだった。